

市議会
6月定例会

稲の初期生育は

順調に推移

市議会六月定例会が招集された六月十日、小畑市長が行政報告をしましたので、その要旨をお伝えします。

なお、今定例会で審議された案件等については、次号でお知らせします。

稲の生育と 水田農業確立後期対策

今年の水稲育苗期間中は、例年に比べ好天で経過したことから、育苗作業が順調に進みました。苗の生育状況は、日中の寒暖の変動が大きかったため一部で発芽不良や細菌病による立ち枯れ症状が見られ、また地域によつ



ては苗床の保温的管理による伸び過ぎのところもありましたが、全般的に順調でした。五月上旬は時々寒気が入り込んで遅霜の心配がありました。中旬は高気圧におおわれ晴れの日が多かったことから、田植え作業が順調に進み二十二日には終期を迎えました。苗の活着や初期生育は順調に進んでいます。

次に水田農業確立後期対策ですが、後期対策は四年度で終わるのて、本年度は折り返しの年に当たります。しかし、五年度からは今まで以上に厳しいポスト後期対策が予想され、それに向けて取り組みが一層重要視されます。生産者団体等が連携して円滑な転作が図られるよう進めていきたいと考えています。

また、生産者、農業関係機関・団体の協力により、本年度の転作の現地確認は六月十日から実施しています。

平成2年度 各会計の決算見込み

一般会計の決算額は、歳入総額が二百億八千七百八十三万円、歳出総額が百九十四億七千二百六十九万円となり、翌年度への繰り越し財源四千八十七万円を差し引いた五億七千四百二十七万円が翌年度繰越額となる見込みです。

水道事業会計の収益的収支の決算額は、収入が九億三千九百七十九万円、支出が八億八千三百八十三万円、差し引き五千五百九十六万円の単年度純利益となる見込みです。その結果、累積欠損金の額は二億五千五百八十八万円に減額となる見込みです。病院事業会計の収益的収支の決算額は、収入が六十二億二千五百五十七万円、支出が六十三億八千八百八十四万円、差し引き一億五千五百五十一万円の単年度損失となる見込みです。なお、未処分利益剰余金千二百六十六万円を補って見ても、二年度末には一億四千二百八十五万円の繰越欠損金が生ずる見込みです。

全庁OA化の 進ちよく状況

現在進めている電子計算機の導入は、全庁的な行政事務の効率化と市民サービスの向上を図るための第一段階として、元年度から三カ年計画で住民情報・税務情報システムを主体に行ってきたています。

元年度は、基幹となる住民情報システムの開発を行ない、二年二月から本庁と各出張所間でのファクシミリ導入による諸証明の発行を開始し、三月十二日から住民基本台帳・印鑑登録事務の運用を開始して、市民課、各出張所の窓口サービスの向上を図ってきました。二年度は、税情報システムのうち、市・県民税、固定資産税、軽自動車税の賦課計算から収納事務、証明書発行までの庁内処理システムを開発しました。三年五月からは新しい様式の納税通知を作成して各世帯へ発送してますし、光学読み取り装置の導入による税の納入後の消し込み処理と資産・納税などの証明書発行が迅速にできるようになりました。三年度は、引き続き国民健康保険税、法人市民税、国民年金の事務の開発を進め、四年度からの運用を目標にたがいま準備を進めているところとす。

市長 レポート

経法大短大の 誘致に向けて

今年の一、大館に佐々木知事が来られた際、秋田経済法科大学の短期大学を大館に誘致したいというお話がありました。

大館市としては、この短大誘致は絶対に逃がすことができないし、設置実現に向けて頑張っていかなければなりません。そのためには、市と市民の皆さんが一体となった一大運動すなわち大館能代空港なみの強力な運動を展開していかなければならないと思います。大館市が東北地域の中核都市としての都市機能の整備を図るためにも、また若者が定着する町にするためにも、大学などの高等教育機関の設置は絶対に不可欠なのです。短大の設置場所としては、四年三月に大館南高校に統合することが決定している大館東高校跡地を有効に利用できます。市では短大誘致のため努力しています。市民の皆さんも早期実現を目指して一緒に頑張りましょう。



No. 1